善正寺だより

〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善　正　寺
TEL:0593-31-1670
FAX:0593-32-0733

掲示板法話

肩の荷を降ろす場所があるからこそ
生死を超えて往ける

「ぬぎすてて　うちが一番よいと　いう」。これは家に帰ったときにふと浮んでくる本音を詠んだ川柳です。だが、帰る家があるだけではこんな気分になれませんね。「お帰りなさい」「おつかれさま」などの言葉（支え）があって初めて、「肩の荷」を降ろす場が恵まれるのだと思われます。現代社会の中で、一体どれだけの人がこのような解放感を味わえているのだろうか？それは、極めて限られた人たちだけの世界ではないか、とさえ思うのです。

上田紀行さんは近著『「肩の荷」をおろして生きる』（ＰＨＰ新書）の中で、「（最近の）日本人はなぜ皆不幸せそうな顔をしているのだろう？」と問いかけながら、不景気だけが原因ではない。「自分という重荷」「親子という重荷」「恋愛という重荷」などで抑圧感を感じる不幸を挙げて、「支えあい」のイメージを取り戻すことが肩の荷をおろす生き方につながることを語りかけます。

相対的にまだまだ豊かな日本に無くて、貧しい海外の国々にあるもの、それは「支えあい」の世界だと言われます。宗教が支えあい社会の根底にあり、血縁、地縁などが肩の荷を降ろせる安心社会を生み出すのです。

先日、九十六歳で亡くなられたおばさんの葬儀の時、久しぶりに老人会の弔辞が読まれました。「ああ、ここではまだ温かい地縁が生きている」と嬉しくなりました。そして、義母を看取ったお嫁さん（喪主）が火葬のボタンを押すとき、「おばあちゃん有難う。（先年一足先に亡くなった）主人と（お浄土で）遇ってください・・・」と語りかけられました。認知症十年以上の介護の日々は大変だったに違いありませんが、いつも「有難う」と微笑むおばあさんへのいとおしさから発した言葉です。

亡きおばあさんが人生の肩の荷を降ろせる場所がお浄土であり、それを無意識のうちに自覚し、認め合う宗教的な共通の居場所があるからこその麗しい惜別の情景でした。

逆説的ですが、無条件に認められる世界（浄土）が開け、自覚されるからこそ、現実世界の肩の荷を背負って生きていけるのではないでしょうか。

☆行事ご案内☆

10月門信徒会例会

10月17日（日）午後7時半

①「なぜ、和讃中心のお勤めなのか？」；750回大遠忌法要の「宗祖讃仰作法」解説と拝読練習

②「肩の荷を降ろして生きる」の紹介と解説

♪三重組コーラス♪　　**10／13（水）陽光苑**

☆10／30（土）夜7時半小杉、善正寺での最後の練習！

来年度より三重組主導の新体制に、新しく生まれ変わります

２０１０御堂演奏会楽譜、１１／３午後光了寺、１１／１５夜西勝寺（報）参加者募集中！１１／２２（月）京都西本願寺御堂演奏会連続８回目参加予定６千円、申し込みお早めに。バス８時半小杉、９時桜発、衣装はコーラス服装、１１／３０（火）１１時半本年度三重組コーラス打ち上げ食事会、寿美家で、三千円

◇キッズサンガ

※１０／２（土）午後４時、お友達を誘って来てね

※毎日夕方５時鐘撞きは誰でもＯＫ飴・ガム付。年中無休

☆10／3（日）三重組お待ち受け帰敬式、八王子西光寺様で

◇一緣会テレホン法話059・354・14543分間法話聞けます

善正寺ホームページ「三重　善正寺」で検索.「つれづれ日記」が好評開設2年2ヶ月で**2万9千回アクセス達成！**毎日４０～５０訪問に感謝！HPからのメール、悩み相談など歓迎！拍手欄より一言メッセージをどうぞ、私達の大きな励みになります。

住職と坊守の2冊目共著本「虫の眼鳥の眼仏の眼」（千円）

（左）平城遷都1300年壬申の乱ウオークに古代衣装を着て門徒のKさん
（右）安城デンパークの蓮の花、猛暑の夏も無事乗り越えました

4／25東海教区お待ち受け、6／27三重組お待ち受け（写真）
7／7名古屋別院音楽祭、今年は三大行事の連続、皆様のご協力に感謝
来年度より三重組主導の新スタッフにバトンタッチ、8年間ありがとう！

坊守スケッチ

ふれあいを恐れる現代人

ここ2ヶ月間、高齢者の行方不明事件に始って、家族の絆の崩壊、地域の絆の希薄さが叫ばれている。長寿大国と言われた日本の意外な落とし穴が露呈した感じがする。

親の年金を当てにして、死んでも葬式すら出せない《年金パラサイト》の子供達。逆に年老いても子供を頼りにしない親世代。頼り頼られてこその家族なのに・・・この背景には一体何が潜んでいるのであろうか？

現在は遺言ブームと言われている。高齢の一人暮らしをする女性には娘が三人いるが、母親から連絡しても「忙しいから電話してこないで」と素っ気無い。寂しさを通り越して、腹立たしさを覚えると言う。そこで母親は「このままでは安心して死ねない。《遠くに住む娘よりも、信用のおける他人の方がまし》と言うわけで、高額のお金で死後の整理を任せられるＮＰＯ法人に頼んだ。この団体ではこういうお年寄りの申し込みが激増。八割以上が子供や親族がいる人からの依頼だ。孤立したお年寄りがこういう決断をするからには、日頃から交流がないことは明白だ。自分の事は自分で結末をつけると、一見潔い決断に見えるが、実の子供にまで心を開かない淋しい老後が見え隠れする。果たして残された子供達は親から一体何を受け取ると言うのであろうか？こうした社会を生み出してきた原因の一つが、知識偏重で、人情に薄い人間関係を生み出した戦後教育の弊害があると思う。

東大生の悩み相談に関わった山田和夫先生が、著書の中で「一流大学を目指す学生は、幼稚園の頃からお受験のモードにどっぷり浸かる。長期化した知育偏重の受験勉強が、彼等を知的・攻撃的な人間とさせる。人はライバル・人は敵と思い込み孤立化。他者と触れ合うことを恐れ、自分が傷つくことも嫌う。家庭では仕事で忙しい父親が消え、勉強と追い立てる母親も消え、友人もいない。親世代がしつける能力を失い、《恥》を忘れたブレーキのかからない車のような人間を生み出す。これを防ぐには小さい頃からの情操教育で、喜びを分かち合う心《情》を大切にすることが必要」と説く。

そういえば味も素っ気もない人が案外多い。見て見ぬ振りの無関心派が結構いる。時候の挨拶以外はしゃべらない人。余計なことを言って憎まれよりはましだが、一言の優しい言葉、思いやりのある温かい言葉が欲しい。また最近はインターネットで知り合う交際も盛ん。顔の見えない相手との交信は危険性が伴う。家族ともろくに会話しないのに、ケータイを手離せない若者。人とのふれあい方が大きく変わりしている。いずれにせよ、多くの人々と喜びを共有できる場に、どしどし出かけることが大切だと思う。

☆寄稿

四日市市　川崎孝一

☆紀国に　先祖供養の　花火あり
　スターマインの　仕掛け彼是

☆煙火待つ　四客船も　揃い踏み
　打ち上げ前の　薄暮れの海に

☆熊野路の　七里御浜に　谷して
　三尺玉の　海上自爆

四日市市　ＡＯ

☆盆毎に　親の縁　手繰りて見れば
　此に彼に　喚び賜う

四日市市　小林　英

《善正寺だより、二百号に寄せて》

☆創刊に　わが夫の計の記されき
　善正寺寺報

☆初蝉を　宿業開発と　はや二百号
　寺報二百号の「坊守スケッチ」

☆十七年　たゆまぬ寺報に　法縁の
　いよいよ深し　わが善正寺

☆ホットニュース☆

☆10月3日三重組お待ち受け法要第二弾（八王子西光寺で）、「帰敬式」（法名を授かる法要）に12名が申し込み。

☆**善正寺のホームページ**・「**三重　善正寺**」で検索可、毎日更新の「**住職と坊守のつれづれ日記**」が好評。開設2年で一1ヶ月で2万9回以上アクセス！

☆住職と坊守の2冊目の共著本『鳥の眼・虫の眼・仏の眼』（自照社刊）

♪三重組コーラス♪

☆10月30日（土）夜7時半・善正寺会場の最後の練習です。来年度から三重組の新体制スタッフにより新しく生まれ変わります。乞うご期待下さい。

※11／3午後　光了寺様報恩講、

※11／15夜　西勝寺様報恩講

以上2か寺のコーラス参加場集中です！

※。11／22（月）京都西本願寺「御堂演奏会」8回目の参加6千円申し込みはお早めに！8時半小杉、9時桜バス発

☆11／30（火）午前11時、半ノ寿美家で。三千円。「三重組コーラス打ち上げ&慰労会」今年大きな行事を大成功のうち三つ無事終了。それを記念してのお食事会。申し込みは最寄のお寺へ。

キッズサンガ・杉の子合唱団

◇10月2日午後4時より。お友達誘って来てね。鐘撞きは毎日。ガム・飴付き

お悔やみ申し上げます

★大橋けい様（9月14日亡・96歳　菰野町）　合掌

☆　編集子より　☆

「善正寺だより」第二〇二号をお届けします。◇「暑さ寒さも彼岸まで」が死語になりかねないような残暑、猛暑の夏でした。その夏に心寒々となるような無縁社会の闇が広がっているような事柄が続々。◇だが、彼岸（浄土）から吹くお慈悲の風が味わえるならば、暑さ、寒さ、人生苦も背負っていける。◇この秋は努めて、お慈悲に触れる機会を求めたいと思うこと頻りです。合掌。

秋の夜長、虫の音を聞きながら美しい月を眺める、月は懐し、人々を思い出させてくれるそんな夜、如何お過ごしですか、元マラソンランナーで熊本市議の松野明美さんが毎日新聞に投稿しました。「私は他人に勝てない人生は意味がないと思っていました、しかし息子がダウン症という障害を持って生まれてから人生の見方が変わりました、ゆっくりでも確実に成長していく姿を見て、勝負が問題ではなく休みながらでも自分のペースで自分のレースをして欲しいと思えるようになりました。「大変ね」と声をかけられると以前なら同情されたくないとツッパっていましたが、今はこの子のおかげで新しい人生の眼が開けたと感謝しています」まさに逆転の発想ですね！どんな状況にあろうともそれが自分にとって必要な上り坂なのだと思える時、新しい光が射し込みます、現在介護で奮闘している方からも同じような力強い言葉を聞きました、「介護は老いのレッスンである」と受け止めれば心が軽くなったそうです。「誰の世話にもならんと強がりを言っていたお婆ちゃんですが、当然のことのように介護を受ける姿を見て、私の時には誰かの世話になるかもしれないでよろしくねと言おうとお婆ちゃんから学びました」とお嫁さんが語りました。これも逆転の発想です、ところで三重組コーラスは11/22御堂演奏会をもって、新体制に生まれ変わります、8年間善正寺を会場にご協力頂いた皆様方本当にありがとうございました

平成二十二年十月　合掌　善正寺坊守拝